

月	火	水	木	金	土	日
月火曜日は 休館日		1	2 陶芸教室 夜間開放	3	4	5 わくわく 土曜日ランド
6	7	8	9 陶芸教室 夜間開放	10	11	12 森へ行こう
13	14	15	16 陶芸教室 夜間開放	17	18	19
20	21	22	23 陶芸教室 夜間開放	24 資料整理日のため休館	25	26
27	28	29	30 陶芸教室 夜間開放			

開館時間 9:30~17:00 ※(木)のみ~20:30

今月のご案内

~わくわく土曜日ランド~

【日程】11月5日(日)

※詳しくは学校配布のチラシにて

~森へ行こう~

歌オブナ林・冬じたく

散策シーズンの終わりを迎え、散策路沿いの道標をはずしながら、晩秋のブナ林を観察します。葉が落ちた森は野鳥観察にも最適!

【日程】11月12日(日)

【時間】9:30~14:30 ※午前中だけの

【集合】歌オブナ林駐車公園 参加可

【参加費】300円(ブナさぼメンバーは無料)

【持ち物】野外で活動できる服装、昼食、敷物、飲み物、軍手、長靴、雨具

◎雨天中止

工房からのお知らせ

ブナセンターには3つの工房があります

木工房：開館時間中は随時利用できます

陶工房：初めての方は教室にご参加ください

食工房：主に冬期間、町内のグループが味噌や豆腐を作ります(興味のある方はまずは見学を)

使用料 210円(大人1名2時間)~
※65歳以上の町民は使用料免除
※別途材料費等がかかる場合があります

工房利用についてくわしくはお問合せください

夜間開放 木・陶工房が無料開放になります

毎週木曜日 18:30~20:30

材料費は
かかります

陶芸教室 初心者向けの教室です(予約制)

毎週木曜日 13:30~15:30

18:30~20:30

参加費 粘土代 600円/1kg

完成までに
3回の来館が
必要です※

※①作品作り②素焼き後の色づけ③完成品の受取り
①~③まで2ヶ月程度かかります

くつまつないの
自然いちおし情報

黒松内で見られる ブナ科の木の实

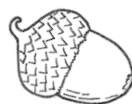
この秋、ブナの実是不作でしたが、ミズナラの実(いわゆるドングリ)はとところどころでなっていました。みなさんはこの「ドングリ」がブナの仲間だとご存じでしたか?(※ドングリとは、一般にブナ科コナラ属およびマテバシイ属の木の実のことをいいます。本州ではクヌギ、コナラ、アラカシ、シラカシなどがドングリと呼ばれています)

黒松内で見られるブナ科の木の実はほかにもあり、右のイラストの4種です。みなさんの身近な場所では、ドングリやクリの実なりはいかがでしたか?

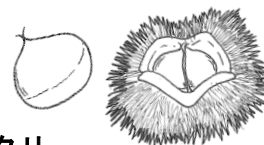
みんなブナの仲間!



ブナ
(ブナ科ブナ属)
黒松内低地帯付近が自生北限



ミズナラ
(ブナ科コナラ属)
北海道ではドングリの木とよばれる



クリ
(ブナ科クリ属)
石狩低地帯が自生北限



カシワ
(ブナ科コナラ属)
森林公園の植栽や作開地区で見られる



ブナセンターだより ときどき プラス



今年、ブナセンターは開館30周年を迎えました。
開館した1993年は熱帯地区でクジラ、カイギュウと大型哺乳類の化石が相次いで発見された年でもありました。当時、教育委員会の職員のほぼ全員が駆り出され、化石発掘作業に従事しました。その後、翌年秋より1996年春にかけて、町民ボランティアを中心に、クジラ化石のクリーニング作業が行われ、完成した標本は現在ブナホールに展示されています。

この時のクリーニング作業に参加したのがご縁で、黒松内の化石にはまり、現在まで「ブナセンター化石ボランティア」として、化石標本の整理、図鑑の作成、学校での化石学習のサポートなどに携わってこられた亀水良子さんに、当時の思い出を2回にわたり語っていただきました。

ブナセンターと化石がつながった日 ~その2~

前回のあらすじ：1994年秋、「クジラ化石クリーニングに参加しませんか?」という呼びかけに、「クリーニングって何だろう?」と参加してみた亀水さん。休憩時間に出されたコーヒーとお菓子のおもてなしにびっくり。やがて化石の魅力にはまることとなり・・・。

この日からスタートしたクジラ化石クリーニング作業には、一般の方々をはじめ古生物学に詳しい中学・高校教師や大学教授、道内外の博物館の学芸員からの助言や協力も寄せられ、実に多くの方々がこの化石に関わることとなりました。

2004年度には中ノ川小中学校が文科省の『理科大好きスクール』に選ばれ、このクジラ頭骨を主題とする授業も行われました。



ブナホールに展示してあるクジラ化石

作業が完全に終了したのは、日本古生物学会の冊子に「北海道黒松内町の前期更新世から産出したナガスクジラ科の鯨類化石」(古澤、横山、木村共著)という論文が記載された2010年です。論文の発表は大切なことでした。たとえ「黒松内からクジラ化石発見!」と新聞に載っても、学術的な文献や資料を集め、比較分析した論文が学会で認められなければ、このクジラは存在していたことにならないからです。発掘から17年、黒松内のクジラは確かに生存していたお墨付きをいただきました。

クジラ化石から貝化石へ、私の興味は広がり、一昨年ブナセンターのHP内に「黒松内の化石」として記録を残すことができました。教材としても利用していただき、大変感謝しています。

あの日、コーヒーとお菓子のおもてなしがなかったら、私の人生も変わっていたのかもしれませんが。
(ブナセンター化石ボランティア 亀水良子)



クジラ化石発見時に記者会見する木村方一先生(当時・北海道教育大学教授)と古澤 仁先生(札幌市博物館活動センター学芸員)(1993年ブナセンターにて)
↑写真はブナホールの展示パネルより



黒松内小学校の『ブナ里学習』の授業で化石のお話をする亀水さん



亀水さんの長年の成果がまつた「黒松内の貝化石図鑑」(ブナセンターホームページより)